

5-2 パブリックコメント

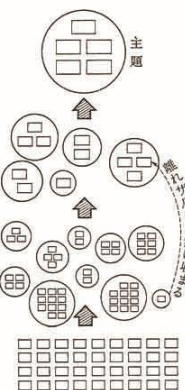
パブリックコメントを構造化することで、軽井沢グランドデザイン像を作成するにあたり有効となりえる手法・考え方を見出した。下記では、多様な意見を構造化するために採用したKJ法について概説し、構造化した資料を次項に掲載する。

・KJ法について

- ①集まった意見からエッセンスを汲み取り、それをカードに記述する。これにより幾つものカードが作成できる。
- ②作成した数多くのカードの中から親近感を覚えるカード同士をグループにまとめる。そのグループに、集めた全カードの内容を包みつつ、圧縮化して表現しうる「見出し」をつけ小チームを編成する。同様の手続きで、小チーム同士を編成して中チームをつくり、さらには大チームをつくる。小チームを編成する際に、チームに入りにくいカードが出てても、無理には小チームに組み込まず、中チーム、または大チームの編成の段階で取り入れる。
- ③各チームを論理的に納得しやすい配置にまとめる。ひと目で全体がわかるよう図解化することで、多種多様であった意見が、意味の構造として把握できるものとなる。

KJ法によるパブリックコメントの構造化

■パブリックコメントの構造化
 当図は、パブリックコメントで頂いた多種多様なデータを構造化したものである。パブリックコメントを構造化していく中で、軽井沢の100年後のグランドデザイン像を作成するにあたり有効となりえる手法・考え方を見出した。
 下記では、データを構造化するために採用したKJ法について概説する。



■KJ法について
 ①集まった各意見から、要点のエッセンスを汲み取り、それをカードに記述する。これにより幾つものカードが作成できる

②作成した数多くのカードの中から親近感を覚えるカード同士をグループにまとめる。そのグループに、集めた全カードの内容を包みつつ、圧縮化して表現しうる「見出し」をつけ小チームを編成する。同様の手続きで、小チーム同士を編成して、中チームをつくり、さらには大チームをつくる。小チームを編成する際に、チームに入りにくいカード(離れザル)が出て、無理には小チームに組み込まず、中チーム、または大チームの編成の段階で取り入れる。

③各チームを論理的に納得しやすい配置にまとめる。ひと目で全体がわかるよう図解化することで、多種多様であった意見が、意味の構造として把握できるものとなる。

出典・参考文献
 川喜多二郎 (1967) 『発想法』中公新書

凡例

- グループ内のまとまり
- 着目したワード
- ⇄ 因果関係
- ⇄ 相互関係

コメントのデータ 全 26 件

- 町民 : 全 12 件【全 33 カード】(青色文字で表示)
- 別荘住民 : 全 10 件【全 28 カード】(赤色文字で表示)
- 団体連盟 : 全 4 件【全 21 カード】(灰色文字で表示)

※「町民」「別荘住民」はパブリックコメントに記載された住所により区別している。なお住民票を所持されている方でも実情、生活の拠点が町外という方、逆に住民票を所持していても、生活の拠点が町内という方もおられる。

【環境の豊かさを体感できる空間計画】

歩行者・自転車優先の街路

- 旧軽井沢銀座通りは車を地下通行とし人と車を完全分離する
- 善光寺門前町のような歩きたくなる街づくりを
- パークアンドライドの実施、巡回販売車の設置などにより、町内から車を排除する
- モーターゼーションを町内から徹底的に減少させる
- 幹線道路を一方通行化し、駐車スペース、散歩道、サイクリングロードを確保する

浅間山を眺められる散策路

- 既存の水路を暗渠化し、浅間山をゆっくり眺められる遊歩道とする
- 国有林に阻まれ、散策しながら浅間山をゆっくりと眺められる場所が限られてしまっている

子供達が自然と触れ合うプログラム

- 青少年向けに浅間山山麓などで、約一週間、自然生活体験をするプログラムを組む
- 子供達の心身の健康のため、自然に親しむ林間学校を開催する

五感に響く空間体験

異なる地区の連結・連続的な体験

- 散歩道、公園、サイクリングロードを有機的に結合し散策ルートを設定する
- 軽井沢町内の各地区を結ぶ環状ルートの形成
- 各地区を循環、周遊する公共交通インフラの整備
- 高齢者も利用出来る外環状ウォーキングトレイルを設置し、複層林化を推進する一助とする

多種多様な地形・地質を活かす土地利用

- 希少な自然環境が残されているエリアを開発禁止区域として保護するルールの策定
- 広大な土地を使うゴルフ場は軽井沢に相応しくない
- 浅間山系の地熱を利用した、地域暖房や温室、追分や木もれ日の里を中心とした難病医療開発
- 高原の自然環境・景観を生かした町づくりを進めること
- 野生生物と共生するなど自然環境を生かした町であり続けること

【居住者が身近のコミュニティ・環境を創造するシステム・場の構築】

居住者の手で軽井沢らしい自然生態環境を創出・維持する仕組み

草地・湿地の復元・維持

- 生物が多様であった昭和初期の軽井沢の草地、湿地が広がる環境を取り戻す
- カラ松ではなく、従来原植物の草原林、森を市民の手により維持していく

町独自の生態系を維持するルールの構築

- 生物種別に持続可能な環境整備法の整備を検討、実施する
- 将来の住民のために自然を手入れし、絶滅危惧種を優先的に保全する
- 生物多様性に関する長期計画を作成し、専門家と住民が協力して行動する

居住者・行政が積極的に自然環境を維持する

- 町と別荘住民が一緒になって森の維持に取り組んでいく
- 住民が自発的に自然環境を保全したいと思えるようにする
- 自然環境の維持や環境の保全に行政が積極的に関与することを期待する
- 軽井沢の町全体が緑に覆われ守られているイメージを発展させるため、植樹を進める

町の運営へ居住者が関与する機会

- 住民と共に町を多角的に分析する仕組みが必要
- 地域住民と別荘住民との連携を強化し、軽井沢の居住する様々な才能を町の運営に活かす
- 住民参加型のプロセスの採用
- 住民(町民、別荘所有者、町内就業者および行政)共同型まちづくり
- 町と各別荘の代表が定期的に意見交換する

充実したコミュニティ単位の確立

「居住者」の身近の環境を豊かにする

- ショッピングの町になっており、町民向けの場所がない、もしくは知られていない
- 土地に長く住んでいる方々が集うようなコミュニティスペースの構築
- 日帰り観光客に依存せず、居住者、別荘所有者に重きを置く
- 日帰り観光客目当ての事業がはびこっている
- 外部資本を排除し、地元商店優先のコンパクトなまちづくりを
- 具体的なデザインやコンセプトは各地区のまちづくりで明確化する

自立した町へ

町を持続可能な規模に保つ

- 新たな商業施設や住居の新築は徐々に抑制する
- 急激な人口増減を避け、現規模を維持する
- 地熱発電、広大な耕作地などを活用した自給自足できる町づくり
- 流動性の高い「観光」に依拠しないまちづくりを

土地利用にメリハリをつける

- 100年後に向け緑の多い涼しい環境、商業地と明確に区分された別荘地を維持する
- 住宅区域、産業区域、行政区域、観光区域、などゾーンの策定
- 別荘地、商業地、居住地の区分を明確にして、地域ごとの特徴を活かした街並みを定める
- 追分地区では、立原道造の「芸術家コロニー」の構想を取り込む
- 中軽井沢ではくっつけテラスをランドマークとし「知識と交流のまち」としていく

【軽井沢独自の文化・精神をまちづくりへ展開する】

軽井沢を象徴する歴史遺産の価値を見えるように

- 旧軽井沢に残っている文化遺産の指定を行う
- 指定文化財(国2件、県2件、町15件)の保護、継承
- 茂沢地区の縄文遺跡、鳥井原地域の弥生遺跡、大和朝廷期の古東山道など現代に至る歴史的遺構の保存活用
- 価値のある個人所有の別荘を町やナショナルトラストが買い取り、保存、公開する
- 三笠ホテル、旧スイス公使館などを会議室、結婚式場などとしてレンタルする
- 価値ある建物の再生の優遇措置

街路空間の質を高める

- 並木を添えた道路網(車道、サイクリング道、散歩道)の計画を策定する
- 主要道路沿いには針葉樹(カラマツ)を植樹することを義務化する
- 電線地中化、街路樹の整備を推進する

駅前顔を緑で設える

- 駅前のペデストリアンデッキを取り除き細川邸の桂並木のような並木道をつくる
- 駅前、駅通りに植樹をし、町の顔として設える
- 新軽井沢エリアに駅前から放射状に緑地帯を設け、風の通り道として街を涼しくする

軽井沢の土地柄に相応しいサイン計画

- 国際化を図るために英語を添えた標識
- ノボリ、看板が邪魔をしないでコブシや桜のシーズンにきれいな写真が撮れない
- 街中の看板や文字、色など配慮、改善
- 自動販売機、光る看板の設置の禁止
- 電気移動手段を設け、排気ガスを削減し、交通渋滞解消を図る
- 街中のデザイン、軽井沢産品を創出する「軽井沢ブランド」の開発、登記、展開
- ゴミが皆無の町とする
- 自然保護対策要綱の周知を徹底的に行い自然保護対策要綱を強化する

軽井沢独自の文化・精神の継承と発展

品位ある町構えが必要

目指すべき都市機能の方向(交流・保養観光・創造)

国際交流・コミュニケーションの生まれる場

- 国際交流活動の拠点を形成する
- 国際会議場の設置
- 大学研究室の出張所、NPO、企業家が活用できるコ・ワーキングスペースの設置
- 町内、国内、海外在住、来訪の外国人向けに町のニュースレターつきのクリスマスカードを送付し、輪を広げる
- 町内外から参加者を募り、精神的なふれあいを重視するボランティア活動グループを結成する

質の高い国際的な観光地・保養地

- 東京のハイエンド層やアジアを中心とした富裕層、観光客が満足できる高いサービス
- スイスのダボスのような国際的な保養地を目指してはどうか
- 保養観光の地であり続ける
- 多くの富裕層を抱えている強みを活かして、高品質・高コストのサービスを受け入れ、世界に冠たるリゾート地とする